

知立市議会議長 様

報 告 者	田中 健（篤心会）
日 時	令和4年10月13日(木)～14日(金)
視察（研修）場所	長崎県長崎市出島メッセ
目 的	第84回全国都市問題会議
<p>【概 要】テーマ：個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～</p> <p>日本は、2000年代より人口減少社会となった。少子高齢化、労働人口の減少、地域経済の衰退など、日本社会は様々な課題に直面している。その課題は具体的には地域によって異なるが、将来にわたって持続可能な都市となるためには、その地域に一定の密度での人口が維持されなければならない。各自治体は、人口の量的な維持・拡大を念頭に置きながら、様々な分野において、直面する諸課題に取り組んでいる。</p> <p>このような中、新型コロナウイルス感染症が世界中に大きな打撃を与え、感染が拡大した時期には、人の移動自体を自粛することが要請され、人と「会う」「集まる」という当たり前の日常が奪われた。経済活動の制限や個人消費の低迷などに伴う、深刻な影響も出た。</p> <p>一方で、当たり前の日々が形を変えたことにより、社会のあり方や人々の価値観に変化の兆しがみられ、オンライン会議やテレワークの普及、現役世代における地方移住の動きなど、働き方、住まい方の変化もみられる。</p> <p>個人が自由度の高い多様な働き方や住まい方を選択していく「包括的な意味での分散型社会」への移行が、社会の持続可能性、経済の活力にとっても重要な要因となる。各都市において、移住・定住先として選択肢になることを視野に入れて、人が訪れ、集まり、交流する場所となるよう、個性を活かした魅力ある地域づくりが求められる。</p> <p>地域外の人々の多様な関わりが地域にもたらすものは、一時的な「観光」に留まらず「継続的」「定期的」に訪れることにより「移住」「定住」とも異なる効果の発現もみられる。そのような仕組みづくりをすでに始めている自治体もあり、今回のテーマである「個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」を実現するための様々な知見や具体的な取り組みを学ぶ機会として開催された。</p> <p>≪1日目≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>主催者挨拶：全国市長会会長 立谷相馬市長、開催都市 田上長崎市長</li> <li>基調講演：ジャパネットHD代表取締役社長 高田旭人氏 「民間主導の地域創生の重要性」～スタジアムシティプロジェクト～ <ol style="list-style-type: none"> <li>① 会社と地域創生「見つける」「磨く」「伝える」→通信販売もスポーツ地域創生も同じ</li> <li>② 行政の役割「公平性」≠（連携）≠民間企業の役割「幸福の最大化</li> <li>③ 「長崎スタジアムシティプロジェクト」の目指すところ</li> </ol> </li> </ol>	

- ④ 働き方改革「健康経営」「断捨離」「整理整頓」：義務を果たして権利を手に入れる
- ⑤ 行政に期待すること
- ⑥ 全国を盛り上げる地域創生の展開：
  - ・ クルージング
  - ・ 食品の頒布会「地域応援プロジェクト」
  - ・ B S 放送局の立ち上げ
  - ・ 航空会社との資本業務提携
- ⑦ 民間と行政はもっと連携すべき
  - ・ 民間の若手経営者は、地域に貢献したいと思っている
  - ・ 民間の強みと弱み、公共の強みと弱みをお互いに理解して手を組む

### 3. 主報告：長崎市長 田上富久氏

「長崎市の魅力あるまちづくり～100年にいちどの長崎～」

- ① 昭和の合併、平成の合併で面積は広がったが、人口減少（少子高齢化）が進み、行政効率が悪くなる
  - ・ ネットワーク型コンパクトシティへ
  - ・ コンパクト「長崎サイズ」
  - ・ M I C E 施設「出島メッセ」
  - ・ 陸の玄関：新幹線駅「夜景に貢献」
  - ・ 海の玄関：港あり、異国の船をここに招きて、自由なる町をひらきぬ。歴史と詩情のまち長崎
- ② 交流により栄えるまち長崎
  - ・ 南蛮船の時代
  - ・ 出島・唐人屋敷の時代
  - ・ 居留地の時代
  - ・ 上海航路の時代
  - ・ 観光都市の時代
  - ・ 変革期の時代：昭和の観光都市→21世紀の交流都市
- ③ 観光は誰のため？観光関連業者のため？市民のため？来訪者のため？「3W I N」
- ④ 観光まちづくりのパートナー：D M O長崎市
  - ・ まちの「価値」とは？：まちのO Sを書き換える→行政（アプリ：市民、企業、大学）
  - ・ まちの「魅力」「価値」に気付く。再発見→創造（例：軍艦島）
  - ・ 「できない」と思うか、「できないと思うからやることに価値がある」と思うか。
  - ・ まち歩き「長崎さるく」→まちの歴史を振り返る「価値に気付く」
  - ・ 素通りのまち→ストーリーのまち「立ち止まって」再発見
  - ・ 「価値」をみがく：景観専門監制度の導入（鍋冠山展望台、出島表門橋、遠藤周作文学館）
  - ・ 高度教育の環境がまちにある→財産、未来への投資
  - ・ 坂×農園：「老朽化家屋」除却後の土地の利用  
→「地域課題」が「資源」となるという発想の転換
  - ・ 「価値」に気付くためには交流は欠かせない：「風の人」と「土の人」

の交流

- ・ 知立らしい暮らしやすさとは？ここにしかないちょうど良さ
- ・ 交流により栄えるまち 次の時代のビジョン
- ・ 天の時、地の利、人の輪

4. 一般報告(1)：島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美氏

「何度も訪れたくなる場所 都市の新たな魅力と関係人口」

- ・ 「旅と移住の間」地方インターン
- ・ 都市と地方の双方の課題：「つながり不足」と「担い手不足」
- ・ 交流・観光（短期的にくる人） 関係人口（継続的に関わる人） 移住・定住（長期的に住む人）
- ・ 関係人口→観光以上、定住未満：限られた担い手をシェアする考え方
- ・ 買う：応援消費、行く、働く
- ・ 関係案内所（観光案内所×）：ゲストハウス、コアワーキングスペース、シェアハウス
- ・ 必要な機能：関係案内人を中心としたコミュニティ
- ・ 公共交通機関（インバウンド、若者）
- ・ インターネット環境（Wi-Fi）

5. 一般報告(2)：山形市長 佐藤孝弘氏

「ビジョンを活かしたまちづくり～選ばれる山形市を目指して～」

- ・ 移住、観光、コンベンション、ワーケーション、関係人口
- ・ 選ばれるまち
  - ① 他にはないまちの魅力を磨いて発信する
  - ② これを加速するため市としてのビジョンを内外に示した上で、具体的な施策を打ち出していく
  - ③ ビジョンと具体的な施策のリンクに徹底してこだわる

6. 一般報告(3)：一般社団法人地域力総合デザインセンター代表理事 高尾忠志氏

「交流の産業化」を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～

- ・ 選ばれる地域になるために求められる価値：マズローの欲求段階
- ・ オリジナリティ（地域の個性）の根源は、オリジン（地域の風土）である。
- ・ まちづくりは、地域のオリジンを再認識し、オリジナリティに育てるプロセス
- ・ 「思いを紡ぐ」過去+現在=未来

≪2日目≫パネルディスカッション

【コーディネーター】東京都立大学法学部教授 大杉 覚氏

【パネリスト】

ゆとり研究所所長 野口智子氏

関係人口づくりとして、人財育成が重要、各分野で活動する人をつなげる、地域にあるものを磨く、関係づくりにおいて、来てくれる人が良い人ばかりではない、地元で迎える人も良い人ばかりではない、コーディネートしつつ人のレベルをあげていくことが重要、行政が世話しすぎない。

- ・ 雲仙人プロジェクト

- ・ものづくり、ことおこし
- ・良いこと（人）ばかりではない
- ・悪いこと（人）の積み重ねは危険

山梨大学生命環境学部教授 田中 敦氏

働き方のスタイルが柔軟化している、ワーケーションは課題もあるが、うまく取り入れていくとよい、コミュニティをどう作るかが重要。

- ・ワーケーション
- ・サテライトオフィス
- ・コアワーキングスペース
- ・「SUUHAA」<https://suu-haa.jp/>

N P O 法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一氏

外から人を迎えたり、市民同士の交流において、まちを歩くことでつながる、市民が長崎自慢をする、交流のまちの遺伝子がある、暮らしの営み紹介、まち歩きはまちづくり、まちそのものがパビリオン、取り組みに関わったひとは人財として残る。

- ・まち歩き「長崎さるく」
- ・お金がかからなくて、人を呼ぶ方法
- ・市民が関わるまちづくり「市民が長崎自慢をする」

飛騨市長 都竹淳也氏

関係人口づくりにおいて、飛騨市ファンクラブを創設、会員約1万人、楽天と協定締結、会員の利用額0.1%が市へ寄付される、ふるさと納税も活用、関係案内所ヒダスケが中心にマッチングする。

- ・飛騨市ファンクラブ：ふるさと納税
- ・ファンの集い：アンケート（満足度が大事）
- ・飛騨市ファンクラブサポートセンター：関係人口
- ・飛騨市関係案内所「ヒダスケ！」

→人口減少時代の困りごとは地域資源

伊丹市長 藤原保幸氏

清酒発祥の地として、地域の誇り、地域の魅力を高める。

- ・日本遺産「清酒発祥の地」
- ・シビックプライド「わがまちを知り、誇りに思う」
- ・伊丹大使制度
- ・地域活動のデジタル化

## 【所 感】

全国から約2,000人の市長や議員、専門家らが集まり、都市問題や行政課題について学ぶ機会だが、新会派を結成して最初の視察であり、移動時間を含めて多くの懇談の機会を得ることができた。コロナ禍で、約3年間このような活動ができなかったことは、やはり大変悔やまれる。

基調講演では、幸福の最大化を図る民間アイデアの重要性が再認識し、知立市でも官民連携を推進する重要性を感じた。

主報告では、まちの価値を、見つける、気づく、磨く、生み出すの観点で高めている点に共感し、知立市でもまちの価値に着眼した取り組みが必要と感じた。

一般報告(1)では、関係人口について、移住・定住や観光・交流の間にある選択肢

として、人口の奪い合いではなくシェアすると捉え、関係人口づくりのキーワードを、①名前が覚えられる規模、②準備、運営、片付け、打ち上げを一緒に、③住民の思いや背景も伝えることとし、量より質、脱お客様、ストーリー化が重要と感じた。

一般報告(2)では、ビジョンを共有し、具体的な施策に落とし込んでいくことへのこだわりが重要だと感じた。

一般報告(3)では、公共事業デザインの指導・管理を通じて、まちの価値を高める事業展開にはとても共感するもので、専門人材の重要性を痛感した。デザインによる演出の差が、明らかにまちの価値を左右し、整備効果や整備後の展開にも大きく影響するもので、知立駅周辺整備においてもこのような展開を検討したい。

パネルディスカッションでは、飛騨市の「ファンクラブ」取り組みに強い興味を持った。

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/fanclub/>

このファンクラブは、飛騨市を大好きな人のコミュニティで、11,000人の登録がある。ふるさと納税やお助け隊との連携は、お金だけではない「コト」支援の輪が広がるもので、今後さらに具体的な調査をしたい。

「選ばれる」というキーワードは、地方創生の文脈でよく用いられるが、そのためには他の自治体との差別化がとても重要になる。そして、「差別化」というと、観光、文化、スポーツ、子育てのように、分野の方向性の判断に目が行きがちだが、事業者との連携のあり方や市民力の活かし方など、化学反応を起こすための現場での創意工夫が結果として大きな違いを生むように思う。加えて、行政の論理だけで考えないことの重要性も再認識できた。



※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。